

## 最優秀賞

神奈川新聞社長賞

「知る」ということ

葉山町立南郷中学校

一年 草柳風太

この夏休みに東京オリンピックが開催された。なんとなく見始めた開会式は僕の大好きなドラクエの音楽から始まったのでうれしくなった。他にも数多くのドローンが地球を形作って浮かび上がった。ピクトグラムをパントマイムで表したり、気が付くと夢中で見ていた。その途中でふと、気付いたことがあった。それは、僕が見ている放送では手話通訳の人が出ていなかったことだ。僕がそう思ったのには理由がある。僕の1学年上の姉には聴覚障害があるからだ。姉本人は全く気にしていなかったが、4年に1度のオリンピックには国民だけでなく、世界の人々が注目しているはずだ。姉と同じ聴覚障害の人々もたくさんいるのにと思ったのだ。僕の家ではいつもテレビの字幕が出るようにしているが、生放送の字幕はどうし

でもずれてしまう。姉も時間差が苦手で、いつも途中で見るのをやめてしまう。開会式のテーマの一つに「多様性と調和」というものがあつたが、僕はなんだかもやもやした気分が残つた。

日本は今までで一番多くのメダルをとつてあつたという間に閉会式の日になった。閉会式も手話通訳はないだろうなと思ひながらも閉会式を見てみたら、手話通訳の人が常に大きく出ている画面で放送されていたのでびつくりした。開会式で僕は疑問に思つただけで終わってしまったが、きつとたくさんの聴覚障害の人たちが僕と同じように感じて、放送する人たちに気持ちが届いたのだと思つた。僕は嬉しくなつて母に話をした。母と一緒にSNSで調べてみたら、同じように喜んでるろう者の方や聴覚障害の方がたくさんいた。

しかし、その喜びの声よりも大きく話題になつていたのが「手話の人の動きや顔が笑える」などの声だ。僕はそれを見て複雑な気持ちになつた。手話を使う人は表情と体や手の動きで気持ちを伝えるので、当然全てが大きくなる。僕も姉には目を見開いたり、口を大きく開けたりしながら手話と指文字を使って会話をしているので、それを笑われたように感じてしまつたのだ。でも、それをつぶやく人たちはみんな好意的に見ているのがわかつた。「知らないだけ」なのだと思ひ付いた。

このことがきっかけで手話通訳のことに限らず、たくさんの人が色々なことを「知ること」が何より大事で、知っていると色々なことを自然に受け入れられたり、話し合えたりすることができるように思う。そこから本当の「多様性と調和」の世界が見えてくるような気がした。